

チェンライ県（タイ北部）における 2011 年及び 2014 年の地震による被害と復興について調査しました(2018/2/20-25)

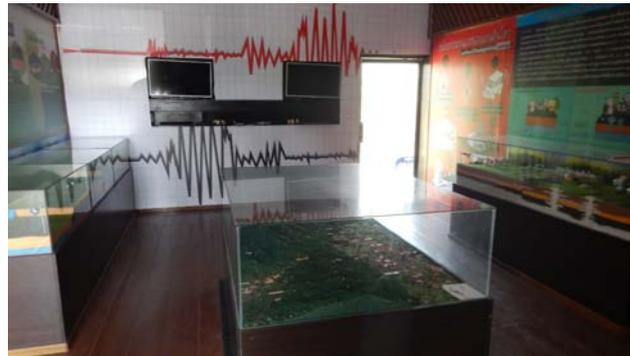
テーマ：2011 年ミャンマー地震，2014 年メーラオ地震
場所：チェンライ県（タイ）

平成 30 年 2 月 20—25 日にタイのチェンライ県（北部）で近年に発生した地震による被害と復興について調査を行いました。調査対象とした地震は，2011 年 3 月 24 日にミャンマーで発生した M6.8 の地震と 2014 年 5 月 5 日にチェンライ県メーラオ市で発生した M6.3 の地震です。2011 年の地震の震源はミャンマーでしたが，チェンライ県ではタイ史上で初めて地震による死者（2 名）が出たほか，多数の史跡被害が出ました。また 2014 年の地震の震源はチェンライ県で，この時も同じように人的被害（死者 2 名）及び建物被害が多数出ました。2 つの地震とも死亡原因の半分は建物崩壊でした。更に地震後には明確な地震被害断定基準等がなく，様々な混乱がありました。

日本学術振興会（JSPS）二国間事業（日タイ）により「日本とタイにおける地震と津波の被害関数に基づくタイの新しい建物設計方針の提案」というテーマで，2017—2018 年度に共同研究を実施しています。研究代表者は，日本側が当研究所の今村文彦所長とサッパシー・アナワット准教授（研究代表者）（災害リスク研究部門），タイ側がマヒドン大学の Teraphan Ornthammarath 助教です。今回の地震被害調査はサッパシー准教授と Teraphan 助教がチェンライ県を中心に行い，調査の対象を一般住宅と公共建物に分けて実施しました。一般住宅ではラーチャモンコン工科大学の教員（Srivichai Mongkonkorn 博士）、サイカオ区役所の副区長、ドンマダ区役所の職員から地震当時の様子，直後の被害状況，復興の進捗状況についてお話を伺い，実際に被害を受けた住宅を案内していただきました。公共施設の建物では学校，病院，寺院，発電所，ダム等を訪問し，残っている被害の様子及び修理状況を確認し，今後の建物設計ガイドライン，被害調査・判定基準に関して被災地の現場で意見交換を行いました。



区役所での打ち合わせ



区役所での地震教育情報

文責：サッパシー アナワット（災害リスク研究部門）
（次頁へつづく）



安全と判定された住宅



大きな被害を受けた建物



一般的な非工学的住宅



建て直された住宅



建て直された学校



修理中のダム



被害を受けたパゴダ
(上の白い部分は新しいもの)



転落した元々の上の部分



被害を受けた県立病院